

英国に在住するアジア系移民コミュニティにおける教育背景と課題

博士後期課程2年

中島 久朱

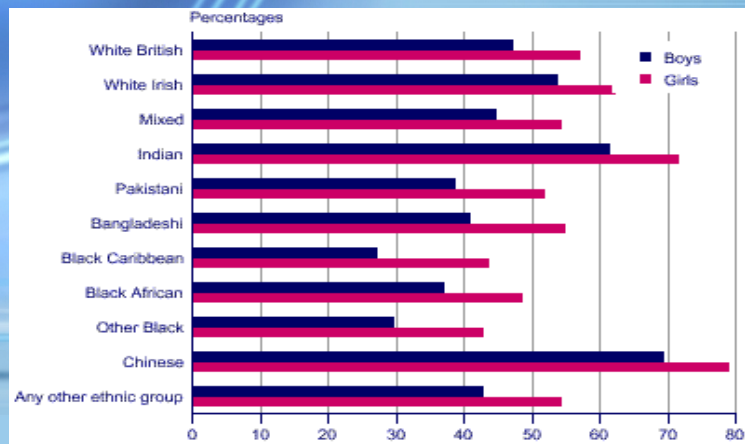
於 ITP研究計画報告会 2008年6月26日

問題の所在

- グローバル化
- 社会統合政策の必要性
- エスニック・グループ間の格差

エスニシティと教育の関係

エスニック・グループ間の教育格差



「コミュニティの結束」 (Community Cohesion) 政策

現在イギリス政府が進める社会統合政策

多様な文化の共存・共栄のため

- 共通の目的を涵養する
- 多様な価値を容認することの利益を理解させる
- 機会の均等を実現する

教育政策における 「コミュニティの結束」①

2007年9月～

全ての公立学校において「コミュニティの結束」を促進させるための教育を行うことが義務づけられる。

2008年度～

教育査察局 (Office for Standards in Education: OfSTED) による監査対象項目に含まれる。

教育政策における 「コミュニティの結束」②

- 社会的多様性と全てのコミュニティに共通するビジョンが同時に保たれること
- 全ての成員に一定の機会が保障される社会の実現
- 社会の未来のために、異なる人々・コミュニティの間に広く価値を共有すること

共有されるべき価値観 (sense of belonging)

1. 特定の場所に居住する際に個人の権利と責任に対する強い理解が涵養されること
2. 異なる利害を持つ者同士が公正に裁かれる社会制度への信頼と社会を監視する主体としての役割が正当化されること

英国のトルコ人とクルド人

- 英国内のトルコ系およびクルド系住民の50%以上がロンドン在住（特にホクニー、ハリンゲイ、イズリントン、エンフィールド等に集住）
- 英国社会から分離する傾向がある
- 教育達成度が低い傾向がある

トルコ系コミュニティ

- 英国内に在住するトルコ系住民：
70,000～100,000人程度
- 1930年代～50年代にキプロスから第一世代が難民として英国移住
- 50年代～70年代の戦後経済に第二世代が移住
- 近年第三世代が移住
- 約98%はイスラム教徒である

クルド系コミュニティ

- 英国内に在住すクルド系住民：
20,000～25,000人程度
- 主にトルコ、イラク等より1980年代から移民
- 近年の英国への亡命者コミュニティとしては最大のグループの一つとされる

ハリンゲイの地域的特徴

- 英国内でも有数の「剥奪された」地域である(東部のみ)
- 地域住民の半数以上がエスニック・マイノリティで構成されている
- 多くの移民、難民、亡命者のコミュニティが位置する
- 住民の転出入の頻度が高い

研究設問

1. 英国の教育に見られる民族グループ間の教育達成度の格差を多文化社会における公教育システムの問題として捉えた場合に、その問題の所在はどこにあると考え得るか。それを同国の学校、行政当局等の教育関係者はどのように捉え、如何なる方策を見出してきたか。
2. 1と「コミュニティの結束」政策の間に齟齬はあるか、あるとしたらどのようなものか。
3. ロンドンのトルコ・クルド系コミュニティ関係者および保護者は同国の社会統合政策に対しどのように認識し、評価するか。
4. 3と同様に公教育には如何なる要求をもち、現在の同国の教育政策をどのように評価しているのか。
5. 子どもたちのもつ多様性を尊重する多文化主義教育と公教育がもつ社会統合機能を包括するものとしての「コミュニティの結束」政策の可能性はどのように評価できるのか。

研究の方法

• 理論構築・文献調査

英国政府、および地方当局(Local Authority : LA)による公文書、関連分野における論文等の収集・分析、近接領域を含む関連諸分野の開講科目への参加等

• インタビュー調査

子ども・学校・家庭省(Department for Children, Schools and Families)関係者、コミュニティの結束研究所(Institute of Community Cohesion)関係者、LA職員、学校教員、当該コミュニティ関係者等へのインタビュー

スケジュール

■授業履修等■

2008年9月

渡英、履修登録等

10月～2009年3月

SOAS開講科目聴講
(移民法関連科目等)

IOE開講科目聴講
(多文化教育関連科目等)

■フィールド調査■

2008年9月

渡英、現地研究者との
顔合わせ等

10月～2009年1月

随時文献収集、インタ
ビュー等

2月～3月

成果の分析・まとめ